令和2年12月

教育センターだより

令和2年度　第2号　　黒部市教育センター

黒部市民憲章への思い

黒部市教育委員会
教育長職務代理者　加 藤 昌 弘

みなさんは、黒部市民憲章をどのように考えていますか。また、定例教育委員会や様々な式典などの冒頭で市民憲章がどうして朗唱されるのでしょうか。

昭和39年に制定された旧市民憲章について、生涯学習広報誌（「山と河」平成14年３月１日発行）に、当時の西坂邦康教育長が「市民憲章の普及実践を」と題して載せられた誌面を今も大切にしています。偶然にも先日（令和２年10月10日）の新旧庁舎見学会開始式でお会いして、誌面からの引用のお許しをいただいたので、特に心に強く残っている３か所を紹介させていただきます。それは「私どもは、教育委員会開会前に、市民憲章を朗唱し、その意義を思い、実践普及に務める誓いを立てています」、「起草と実践普及の先鞭をつけられた初代教育長朝倉豊次氏が、渾身、奔走されたことが今も鮮明に思い出されます」、「今こそ、各市町の先賢が最も身近な規範として制定してくださった『憲章』を住民がひとつになって実践することが大切ではないかと思います」であります。

平成20年に制定された市民憲章は、新しいものです。平成30年４月に就任された大野黒部市長の公約は「健やか展びやか朗らか黒部の創造」ですが、奨学金の拡充などの施策から、根底にあるのは一貫した「思いやり」の心であると想像します。僭越ながら、それはまさに市民憲章の４番目「思いやりの心を大切にし、温もりのあるまちをつくります」を踏まえての決意と実践であるとも推察され、まちづくりの指針である市民憲章を大切にしておられると改めて感じます。

ところで、私も教育委員の職務として幼稚園・小学校・中学校で入園式・卒園式や入学式・卒業式で祝辞（告辞）を担当することがあります。当初はどんな「心構え」や「はなむけ」の言葉を話せばよいのか迷いましたが、黒部市の行政委員としての立場から市民憲章や黒部市歌の一文を引用して話すように心がけています。例えば、中学校の卒業式では、市民憲章の前文に「わたしたちの黒部市は、黒部川の源流北アルプスから富山湾にいたる緑豊かな名水の里ですとありますが、黒部川の源流北アルプスはどこの山でしょうか」と卒業生に尋ね、「それは鷲羽岳（わしばだけ）、標高2,924ｍで、ここに積もった雪が解けてできる小さな１滴の水の流れが、黒部川の最初、つまり源流である。それに周りの山々からしみ出たわずかな水が少しずつ集まり、大きな黒部川になるように、これからは一つ一つの積み重ねを大切にして、大きな成果を生んでほしい」と話しました。

現在、市内の幼稚園・小学校・中学校、市の関連施設には、市民憲章が掲示されています。しかし、残念なことに、小さな文字、小さな額で教室等の隅に掲示されているためか、日常的に目を留めることが少ないようです。できれば、文言について折にふれて具体的に話をする機会をもつなど、いつでもどこでも意識できるような工夫も必要だと思います。

今後は、市民全体の一体感をより高めるために、市民憲章が小学生・中学生の頃から親しめるような環境づくりを積極的に進めたいものです。そして、その取組により、目指すべき黒部市の姿への熱い思いが一層膨らみ、実践へとつながれば、黒部市の将来は明るいと考えます。

巻頭言に記述のある「黒部市民憲章」並びに黒部市民憲章解説は、黒部市HP（2012年４月～現在）にも掲載されています。
「目指すべきまちづくりの指針」「未来に引き継いでいくよりどころ」として制定された「黒部市民憲章」の理念を今一度、確認したいと思います。

黒部市HPより

市民の一体感をより一層高めるとともに、黒部市の理念を共有し、目指すべきまちづくりの指針となる黒部市民憲章が、平成20年３月19日に黒部市議会で議決され、制定されました。今後、この市民憲章を各公共施設で掲示し、広く市民に周知するほか、小学校や中学校にも掲示し、子供の頃から市民憲章に親しめる環境づくりを行っていきます。

黒部市民憲章

わたしたちの黒部市は、黒部川の源流北アルプスから富山湾にいたる、緑ゆたかな名水の里です。その清らかな水と肥沃(ひよく)な扇状地は独自の歴史と文化、産業を育(はぐく)んできました。かけがえのないこのふるさとを誇りとし、さらに発展させるため、わたしたち市民一人ひとりがまちづくりの主役となりましょう。

わたしたちは、
一、水と緑をいつくしみ、うるおいのあるまちをつくります。
一、伝統に創意をかさね、個性のあるまちをつくります。
一、働くことを喜びとし、活力のあるまちをつくります。
一、思いやりの心を大切にし、温(ぬく)もりのあるまちをつくります。
一、世界の人々と交流を深め、魅力(みりょく)のあるまちをつくります。

【解説】
平成18年3月31日、旧黒部市と旧宇奈月町の合併により、「大自然のシンフォニー　文化・交流のまち　黒部」を将来像とする新黒部市が誕生しました。わたしたちは、この新しい郷土に生きる喜びと責任を感じるとともに、未来に引き継いでいくよりどころとなることを願って、ここに市民憲章を定めました。

水と緑をいつくしみ、うるおいのあるまちをつくります。
黒部市は、北アルプス連峰を背景とし、黒部峡谷、扇状地、湧水群、富山湾など、多彩な自然環境に恵まれています。わたしたちは、これらの自然と共に生きることに誇りをもち、水と緑の保全に努めて、うるおいのあるまちを目指します。
［自然との共生、環境の保全］

伝統に創意をかさね、個性のあるまちをつくります。
黒部市は、固有の文化と歴史を育んできました。伝統に新たな創意が加わるとき、まちの味わいは一段と深まります。現代に生きるわたしたちは、先人の知恵と技術に感謝しつつ、より一層研さんに努め教養を深めて新たな文化を創出し、個性のあるまちを目指します。
［伝統の継承、文化の創出］

働くことを喜びとし、活力のあるまちをつくります。
黒部市は、農林業、水産業、工業、商業、観光に、さまざまな可能性を秘めています。これらの産業をさらに発展させることはふるさとに生きるわたしたちの責務です。わたしたちは心と身体をきたえ、健康で働くことに喜びが感じられる、活力のあるまちを目指します。
［働く喜び、産業の活性化］

思いやりの心を大切にし、温もりのあるまちをつくります。
黒部市は、昔から人々のきずなを大切にする住みよいまちです。わたしたちは互いを思いやるとともに、きまりを守り、暮らしの環境をととのえて、お年寄りも子供も安心して健やかに暮らせる、温もりのあるまちを目指します。
［福祉の充実、快適な暮らし］

世界の人々と交流を深め、魅力のあるまちをつくります。
黒部市は、国内外から多くの方々を受け入れています。黒部市が、訪れる人々の思い出に残るように、わたしたちはふれあいを大切にして交流を深めます。そして、ふたたび訪れたくなるような、魅力のあるまちを目指します。
［交流の場、もてなしの心］

第3回生徒指導主事等研修会より

11月13日（金）に開催した第３回生徒指導主事等研修会では、清明中学校　カウンセリング協力員　川口　将教諭の発表（令和元年度教員カウンセラー養成事業・内地留学研修報告）を基に研修を実施しました。

川口先生は、昨年度10月から半年間、「カウンセリングの視点を生かした積極的な生徒指導」をテーマとして富山大学人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センターにおいて研修に取り組んでこられました。その研修成果の一端を共有することで、広く市内小中学校での今後の生徒指導に生かすことをねらいとし、川口先生にご講話いただきました。講話の一部をお知らせします。詳細は各校に配付されている内地留学研修報告書をご覧ください。

◆　カウンセリングとは、言語的・非言語的コミュニケーションを通して、行動の変容を試みる人間関係。

◆　カウンセリングのねらいは、人間関係を築きながら行動の変容を促し、問題を解決することを支援すること。

◆　カウンセリングで求められる人間関係の基は、「相手を真に分かろうとする姿勢」である。“真に分かる”とは、相手が置かれた立場や環境を理解した上で感情や心的状態あるいは人の主張などを、自分も同じように感じたり理解したりすることである。（※同調ではなく共感）

　自己開示や体験の共有を通して、良好な人間関係（一緒にいて安心できる関係）を築いていく。これを「ラポールの形成」という。

◆　「全てはラポールの形成から」

　「先生はわたしのことを分かってくれている」という感覚を児童生徒がもっていること。突拍子もないことをしたとしても頭ごなしに叱るのではなく、まずは、なぜそうしたのかを、“最後まで、丁寧に、しっかりと”聞く人がいることが大切。

〔参加者の感想から〕

・カウンセリングにおいてラポールの形成が大切だということを改めて実感した。子供の気持ちをしっかりと聞いて人間関係を築きながら積極的な生徒指導をしていかなければならないと思った。

・カウンセリングで求められる人間関係として「ラポールの形成」が話題になったが、子供との良好な信頼関係を築くことの重要性を感じるとともに、保護者とのそれも大切であると感じている。訴えや言い分に耳を傾け、しっかりと思いを受け止めることが良好な信頼関係を築き問題解決に向かう第一歩なのかと思った。

・積極的な生徒指導について、系統的に整理して学んだり振り返ったりする貴重な機会となった。エンカウンターの要素を取り入れた実践を継続して行っており、徐々に効果を実感している。今後も継続して行っていきたい。

　児童生徒と良好な人間関係、信頼関係を築くことが生徒指導の第一歩であること。そのためには、児童生徒一人一人を知りたい、理解したいという願いをもち、「最後まで丁寧に聞く」ことのできる教師でありたいという思いを高めた研修会でした。

　発表していただいた川口先生に心より感謝いたします。

今年度、市内小中学校に着任された新規採用の先生方を紹介します！

「子供たちに寄り添って」　　**生地小学校　三浦　裟羅**

生地小学校に勤務してから、約半年が経ちました。毎日元気いっぱいの子供たちからパワーをもらい、充実した日々を過ごしています。この半年間の中には、子供の成長や子供の「できた！」に出会う機会がたくさんありました。それは、私にとって何より嬉しく、子供たちを誇りに感じることでした。
これからも、子供たちがもつよさや個性を伸ばし、一人一人に寄り添える教員になれるように研鑽を積んでいきたいです。

「日々成長をめざして」　　**たかせ小学校　高牀　良裕**

教員としての新たな生活が始まり、約半年がたちました。休校期間等もあり子供たちと会うことのできない時期もありましたが、子供たちと心通わせ、楽しい毎日を送ることができています。子供たちが学校生活を通して新たなことを学び、成長する姿に喜びを感じる日々です。授業においても子供たちとの関わり方においても、まだまだ上手くいかないことが多々ありますが、子供たちと共に自分自身も一緒に成長していけるように、自己の研鑽に励んでまいります。

「子供たちの優しさに触れて」　　**石田小学校　横田　光平**

最初は何が分からないのかも分からない日々でしたが、少しずつ何が分からないのかが分かるようになってきた気がします。最近では、初めての学校訪問研修で緊張する私に対して、手のひらに「きんちょうしないで」と書き、励ましてくれる子供たちの優しさに触れることができました。
周りの先生方のサポートや、学級の子供たちに恵まれていると感じる日々の中で、感謝の気持ちを忘れることなくこれからも頑張っていきたいです。

「日々　全力」　　**中央小学校　魚津　知里**

４月に初めて教壇に立ち、子供たちの私を見るまなざしに教師になった喜びと子供たちの私に寄せる期待を感じました。日々、理想と現実とのギャップに教師の大変さや人を育てることの難しさを感じながらも、充実した日々を送っています。それは、周りの先生方のお力添えと元気いっぱいの子供たちのパワーのおかげです。
これからも、子供と一緒に学び、教員としての基礎を身に付け、子供に寄り添った指導ができるように全力で取り組んでいきたいと思います。

「子供とともに成長する教師」　　**中央小学校　鍛治　太成**

私が教員として働き始めてから約半年が経ちました。コロナの影響もあり普段通りの生活を送れない中、子供のたくましく元気に活動する姿や、日々の学習への粘り強い取り組みを近くで感じています。また、子供と一緒に遊ぶこと、学ぶこと等、共に経験することを大切にしながら、たくさんのことを子供から学んでいます。
子供一人ひとりのよさや頑張りをキャッチできるよう、心の距離を近くに保って子供と関わることのできる教員を目指していきます。

「出会えた喜びを忘れずに」　　**桜井小学校　野末　千晴**

素直で、無邪気で、元気あふれる子供たち。小さな成長をみるたびに、「この子供たちに出会えて本当によかった、教員の道を選んで間違いなかった」と心から感じています。私は、１年生の担任をしています。初めて「せんせい！」と呼ばれた入学式の日。嬉しさや身の引き締まる思いで一杯になったことを、今でも鮮明に覚えています。そのときの思いを決して忘れず、子供たちに寄り添いながら、共に成長できる教員であり続けたいと思います。

「子供たちの成長のために」　　**桜井小学校　米田　佳那子**

子供たちと共に喜びを分かち合うたびに、本当に教員になってよかったと感じ、充実した日々を送ることができています。教員になり半年以上経つ現在、特に力を入れていることは、授業力の向上です。学校生活の大半は授業です。学級経営の要でもあります。子供たちが納得し、認めてくれる授業を目指し、日々教材研究に励んでいます。今後も自己研鑽し、目の前の子供たちの成長の力添えになれるよう、精進していきたいと思います。

「『分かった』『楽しかった』を楽しみに」　　**荻生小学校　広田　雅**

教員生活も半年間が過ぎ、しみじみ実感していることは、「教員の仕事は大変さに増して喜びや、やりがいがある」ということです。今一番大切にしていることは、「教材研究」です。子供たちは正直です。私に「毎日、きちんと教材研究をしているのか」と無言で問いかけてきます。私もそれに応えようと毎日が必死です。しかし、全く苦に感じません。なぜなら、子供たちの「分かった」「楽しかった」と出会える瞬間が楽しみだからです。

「たのしさ」を教えたい　　**清明中学校　田口　蓮**

新規採用として早くも半年以上が経ちましたが、今年は例年とは違う１年ということで現場の先生方や生徒の力を借りながら手探り、かつ新鮮な日々を送っています。その中で心掛けていることは、授業でも部活動でも生徒の目線に立って指導にあたることです。そして生徒自身が試行錯誤しながら「わかった」「できた」に辿り着くための手助けをして、その「たのしさ」を教えることが僕の役割だと思っています。そのためにも僕自身、学び続けることを忘れないでいきたいと思います。

「中学校の教員になって」　　**明峰中学校　島崎　皓子**

昨年度まで、他県の高等学校で勤務していました。今年度から生まれ育った富山県の中学校で勤務する中で、学習や生徒との関わり等、新たな学びが多くありました。行事が中止されたり制限されたりする異例の年ですが、限られた環境の中で全力で取り組む生徒の姿に元気をもらっています。学校では大変忙しい日々が続きますが、多くの先生方の支援やアドバイスが心の支えになっています。今後も一生懸命取り組んでいきたいです。

お忙しい中、原稿をお寄せいただきありがとうございました。
子供たちと共に、日々、全力で授業に取り組もうとしている先生方の熱い気持ちが伝わってきました。
教育センターでは、若手の先生方におすすめの図書や参考になる指導案等も貸し出しています。ぜひ、授業力・指導力の向上にお役立てください。

夏季研修会・各種研究委員会

市教育センターでは、例年、夏季休業中に多くの研修会や講演会を開催し、市内小中学校の多数の先生方にご参加いただいています。しかしながら、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学力向上研修会やプログラミング教育研修会等、多くの先生方が一堂に会する形態の研修会を中止しました。また、魚津地区教育センター協議会主催による生徒指導、外国語教育、道徳科に関する講演会についても、同じく開催を見送りとしました。今年度、招聘を予定していた講師による講演会や研修会は、来年度以降開催できるよう準備を進めています。

多くの参加者を募る講演会・研修会に替えて、参加対象を絞った形態で「特別支援教育研修会」「体力・運動能力向上指導者研修会」を開催しました。また、例年同様、理科・社会科・情報教育の各種研究委員会も開催しました。例年と比べて短かった夏季休業中、ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

各研修会と研究委員会の様子を簡単にご紹介します。

【体力・運動能力向上指導者研修会】

○８月７日（金）〈対象：小学校体育主任、中学校体育科主任等〉

体育科の授業力向上を図る実技研修を行う当初の計画を変更し、東部教育事務所　主任指導主事　竹内　康彦先生による講話を中心とした指導者研修会として開催しました。

竹内先生には、事前に各校より寄せられた質問事項を踏まえて、「with コロナ」における体育科授業や体育的行事の在り方、体力向上の取組等について分かりやすくご指導いただきました。後半には、中規模校、小規模校、中学校のグループに分かれ、感染防止に関わる各校の取組や体育大会・運動会等における留意点について情報共有、協議する場も設定しました。

参加された体育主任や体育科主任の先生方からは、「運動会を実施する意義について考えることで、『例年通り』でなく、さらに子供たちのためになる行事になるよう見直していきたい」、「『withコロナ』の具体的な取組を知ることができ、自校の対応で不足していた点に気付くことができた」等の感想が多く聞かれました。

【特別支援教育研修会】

○８月18日（火）〈対象：小中学校特別支援教育コーディネーター〉

講師として、東部教育事務所　特別支援教育指導員　上田　綾子先生をお迎えし、「学校不適応の予防、改善につなげる発達障害への理解と支援の在り方」についてご指導いただきました。

上田先生には、児童生徒の困難さを理解して支援することの大切さや問題となる行動を解決する方略、「自己理解」を促すための支援等について分かりやすく教えていただきました。また、ケース会議の開催や関係機関との連絡調整、学級担任への支援等、特別支援教育コーディネーターの役割について研修を深めることができました。後半には、参加者への事前アンケートをもとに想定した事例について具体的な指導・支援方法を考える演習も行いました。

参加された先生方からは「子供たちの行動の原因を細かく見取ること、思いを踏まえることの大切さをあらためて実感した。支援級や通級のみならず、学校全体で共通理解したい内容だった」「校内の支援委員会、ケース会議に生かしたい」等の感想が多く聞かれ、参加者が主体的に学び、今後の職務に生かすことができる大変有意義な研修会とすることができました。

【理科教育研究委員会】

○８月４日（火）〈対象：小中学校理科教育研究委員〉

昨年度までの研究委員会で作成された小学校の理科授業支援のための資料「理科の観察・実験で困っていることQ&A」及び「実験準備カード」を、今年度から使用している新教科書に準拠したものとするための見直し、改訂作業に取り組んでいただきました。

理科の観察・実験においては、安全面から指導が必要なことや留意点、準備する上で欠かせないことが数多くあります。この「Q&A」及び「実験準備カード」は、理科教育を専門とする研究委員の知識や経験を生かして作成した、若手の先生方、指導経験の少ない先生方も、安心して理科の授業を行うための有効な手引きです。完成し次第、市内全小学校に配付する予定です。ぜひご活用ください。

【社会科研究委員会】

○８月６日（木）〈対象：小学校社会科研究委員〉

小学校3年・4年の社会科で使用する学習用資料「わたしたちの黒部市」については、昨年度の研究委員会において、新教科書に合わせて大幅に改訂されています。今年度は、授業での使用を通して気付いた改善点の修正や最新のデータや写真への差し替え等に取り組んでいただいています。委員の先生方による見直し、最新データの収集や資料の確認等を経て、令和3年度版の学習用資料「わたしたちの黒部市」を完成します。

【情報教育研究委員会】

○８月20日（木）〈対象：小中学校情報教育研究委員〉

黒部市では、「GIGAスクール構想」（Global and Innovation Gateway for All）のもと、小学校１年から中学校3年まで全児童生徒を対象とした「１人１台の学習用端末」の整備と校内通信ネットワークの整備に取り組んでいます。そこで、市教委学校教育課　施設係・学校教育係の方々から、市内小中学校のICT環境の整備と活用についてご講話いただき、「GIGAスクール構想」の進捗状況と今後のスケジュールについての周知を図りました。

情報教育研究委員会では、今後、ICT（１人１台学習用端末とネットワーク）を活用した学習活動の推進と充実のため研究を進めていきます。

第15回　黒部市小・中学校科学作品展　最優秀賞

今年度は、市内小中学校から優秀作品48点が集まり、その中から以下の8作品が最優秀賞に選ばれました。さらに厳選された4作品が県出品となり、第79回富山県科学展覧会で賞を受けました。
（◆は県での受賞名）

〇とんとんずもう～めざせ!あさのやま～
◆研究努力賞　荻生小1年　中嶋 光誠

〇なぜ　うく？　なぜ　しずむ？
中央小2年　川口　康

〇カメのさん歩
～カメは本当にのろいのか？～
石田小3年　飛彈　陽菜

〇モリアオガエルのかんさつパートⅢ
◆研究努力賞　若栗小3年　中西 瑠煌斗

〇迷路×ダンゴムシ
◆創意工夫賞　桜井小4年　山瀬　陽功

〇Wi-Fi環境の向上
◆研究努力賞　清明中1年　小林 廉太郎

〇高分子材料とプラスチック
明峰中3年　本堂 春来

〇氷のとけ方調べ
明峰中3年　安達 一生

第15回　黒部市少年少女発明くふう展　優秀賞

今年度も多くの作品（小学校124作品、中学校9作品）が出品されました。その中から 42作品が優秀賞となり、県発明とくふう展に出品されました。

第58回富山県発明とくふう展では以下の12作品が受賞しました。生地小学校5年 小柳蒼空さんの「全部すっちゃいますプレー」が県教育委員会教育長賞に、中央小学校4年 上里智佐さんの「祖母のためのえだ豆ハンガー」が県発明協会長賞に選ばれるなど、昨年度と同様素晴らしい結果となりました。

（◆は県での受賞名）

〇全部すっちゃいますプレー
◆県教育委員会教育長賞　生地小5年 小柳 蒼空

〇祖母のためのえだ豆ハンガー
◆県発明協会長賞　中央小4年　上里 智佐

〇Tシャツにあとがつかないハンガー
◆黒部市長賞　荻生小3年　中島　希

〇指守り隊　出動!!
◆北日本新聞社長賞　荻生小6年　前田 彩友

〇ソーシャルディスタンスプレー
◆優秀賞　生地小2年　小柳 結菜

〇耳がいたくならないマスクヘアバンド
◆優秀賞　たかせ小2年　杉山 詩織

〇帽子の型崩れ防止の洗濯ネット
◆優秀賞　中央小2年　佐々木 伯登

〇まど開けしめぼう
◆優秀賞　宇奈月小5年　清河 そよ

〇買い物袋ポケットイン
◆優秀賞　明峰中1年　内呂 幸慈

〇せんざい「そそげーる」
◆奨励賞　村椿小2年　髙村 隼輔

〇テーブルの上におかなくていい
マスクストラップ
◆奨励賞　生地小3年　近江 ほのか

〇クリアファイルで2wayマスクケース
◆奨励賞　桜井小5年　宮寺 奏和子